



共創

NO 5 (8月号)

令和4年7月22日発行

72日間の学校生活が過ぎ、明日から33日間の夏休みに入ります。

夏休みに思いを馳せている子どもたちに、今日の全校集会で、自分の成長を「あゆみ」という言葉に置き換え、下のよう、あゆみの頭文字に使う、自分の学習や生活をふりかえってみました。

「あ」

あたたかなことばで
つたえあいましたか？

「ゆ」

ゆめをかかなえるちからを
つけることができましたか？

「み」

みんなといっしょに
たのしいせいかつを
つくろうとしましたか？

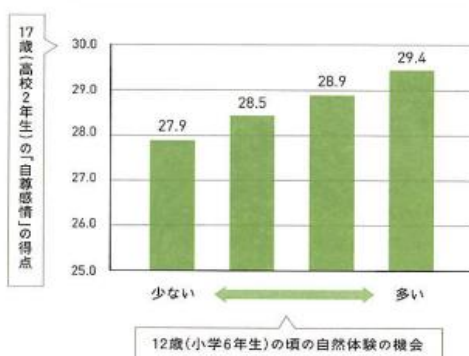
学校は、子どもたちが「自分で生きる力」を育む場所です。学習をとおして知識や技能、思考力や表現力を身につけることはもちろんですが、学校での生活や活動をとおして育まれる、「人と関わり協働する力」や「人を思いやる心」も、大切な生きる力です。

その**生きる力の源になることが、「自分を大切に思う心（自尊感情）」**です。この自分を大切にする心は、その子を取り巻く環境によって育まれます。**家族や周りの人たちから認められたり、勇気づけられたりして「自分は大事にされている」と実感することが、その子の自尊感情を育むのです。**

前回の学校だよりにも書きましたが、人は、自分を大切に思うからこそ、人のことも大切にすることができます。「自分のよさも、弱さも、それが自分らしさなのだ」と受け入れることができ初めて、自分とは違う人の見方や考え方、すなわち「その人らしさ」も受け入れることができるのです。様々な人の「その人らしさ」(多様性)を大切に、自分らしく生きていくこと。それが、これからの時代を生きる子どもたちに必要な「生きる力」なのです。

さて、「自尊感情」についての興味深いデータがあります。右のグラフをご覧ください。文部科学省『21世紀出生児縦断調査』及び『青少年の体験活動の推進に関する調査』では、**小学校の頃に体験活動（自然体験、社会体験、文化的体験）や読書、お手伝い、異年齢の相手と遊ぶ機会が多かった子どもは、高校生の時点で自尊感情が高い**ということがわかりました。また、小学校時代の体験は、長時間が経過してもその後の成長に好影響を与え、**外向性や、精神的な回復力も高い傾向が見られる**ということです。

「体験活動」の影響



全校集会では、絵本「まほうの夏」を読み聞かせしまし

＜文科省：R2 青少年の体験活動に関する調査報告より＞

た。夏休み、家でゲームばかりして過ごす兄弟が、母親の実家がある海辺の町へ行き、そこに住む子どもたちと、虫取りや木登り、魚釣りなど思う存分遊ぶ中で、たくましく成長していくお話です。

夏休みは、虫取りや魚釣り、絵を描く、工作する、生き物を育てる、運動をするなど、思い切り体験する時間をつくることができます。ぜひ、夏休みにしかできないことを体験してほしい、自分の時間を大切にしてほしい、そして忘れられない家族での思い出をつくってほしいと願っています。8月25日(木)、たくましく成長した子どもたちに会うのを楽しみにしています。(校長 小林 正宣)